

## 第三編 一般地體構造論

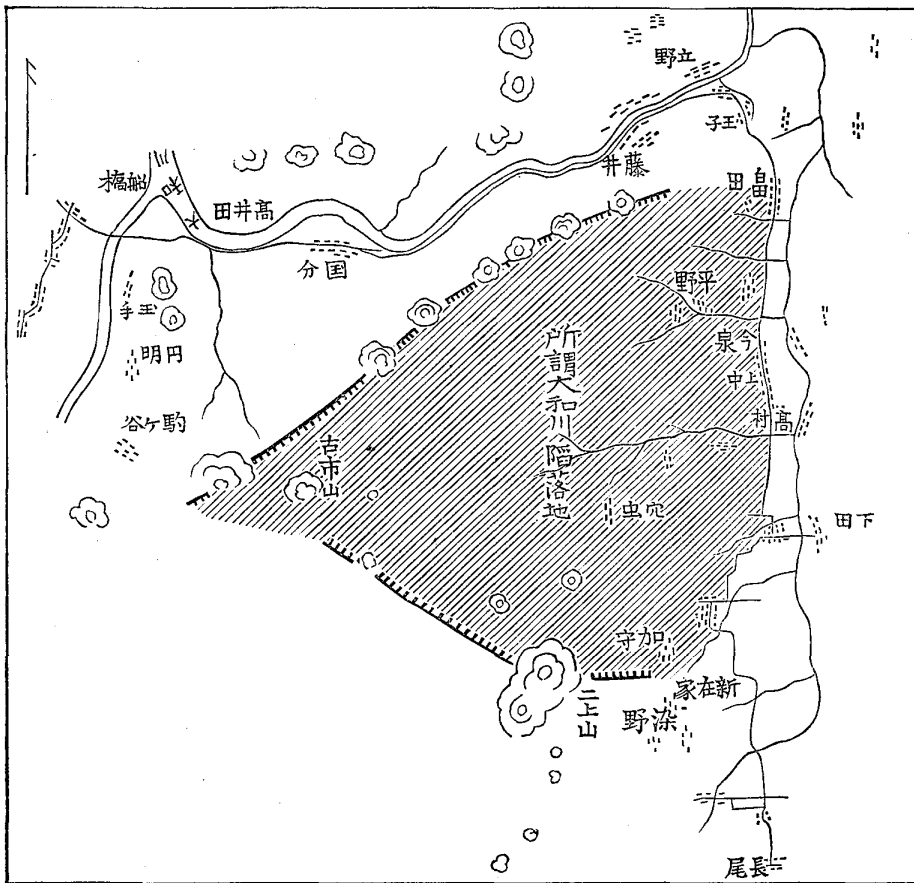
所謂大和川陷沒(次頁參照)ト名付クベキ一大陷落アリシ以來我が區域ニ於テハ著シキ變化地體構造ノ上ニナカリシガ如シ然レドモ之ニ關連シテ吾人ノ知ラント欲スル處ハ葛城山脈ノ地體構造上ニ於ケル歴史及ビ原因、次デハ大和川陷落ノ前者ニ對スル歴史的又地體的ノ關係ナリ。

抑々此ノ葛城山脈タルヤ地形上片麻岩ヨリ成ル一ツノ地塊トシテ論ズベキモノナレドモ果シテ如何ナル原因ニ依テカクノ如キ形體ヲトリシモノナリヤ、褶曲作用ニ依レルカ又ハ兩側陷沒ノ結果ナルカ以下少シク之レガ研究ヲ試ミン扱テ此ノ問題研究解決ニ際シ決定セザルベカラザルハ該山脈ヲ形成シツ、アル正片麻岩ノ層面ノ方向及ビ同時ニ某ノ方向ト地形トノ關係ナリ、然レドモ前述ノ片麻岩タルヤ却テ花崗岩の外觀ヲ有シ從テ層理又甚ダ不明ナルガ爲メ不幸ニモ此ノ事ヲ確ムル能ハザリシハ返ス返スモ遺憾ナリ。

茲ニ於テ只地形ノ上ヨリ想像スルノ餘儀ナキニ至レリ、然ラバ地形上彼等ハ如何ナル特徴ヲ有スルヤ今該山脈ノ西側ヲ視察スルニ河内平原ニ臨メル處傾斜比較的急ニシテ其地形ハ吾

人ヲシテ葛城山系ノ西側ニ沿ヒ南北ニ走レル斷層面ヲ容易ニ想像セシムルモノナリ、更ニ一轉シ山系ノ東方ヲ見ルニ大和化石湖又ハ地溝ヲ想像スルトキニ於テ吾人ハ更ニ該山系ノ或ハ一ツノ「ホルスト」(Holszt)ニ類スルナキカヲ疑フモノナリ。

第一圖



次ニ葛城山系上ノ所謂大和川陷落地ニ就テ考フルニ大體二ツノ斷層面ニ依リテ作ラレタルガ如シ區域ヲ充タセシ、新火山岩ハ實ニ此ノ斷層面ニ沿ヒテ流出セシモノニ外ナラザルナリサレバ一線ハ南西ヨリ東北ニ走リ他線ハ略ボ東西ニ走レル此ノ斷層面ニヨリテ形成サレタル所謂大和川陷落地ナルモノハ抑々我方區域ニ於ケル根本的地體變化ヲ與ヘシモノナリ、尙ホ此ノ大和川陷落地ト葛城山系トノ關係ニ就テハ後第四編ニ讓ラン。

區域内ニ於ケル水成岩ノ地體的變化ニ就テハ取り分ケ論ズベキモノナシ即チ概論スレバ區域内ニ於ケル一大變化ハ前述大陷没以來著シキ變化ナク現今ニ至ルマデ甚ダ靜カナル年月ヲ經過セシガ如シ然レドモ地體一般ノ上昇又ハ下降ノ靜カナル運動ニ依リテ甚ダ僅少ナル局部的變化ノ有リシ事明カナリ。